

名建築

鹿部町総合体育館



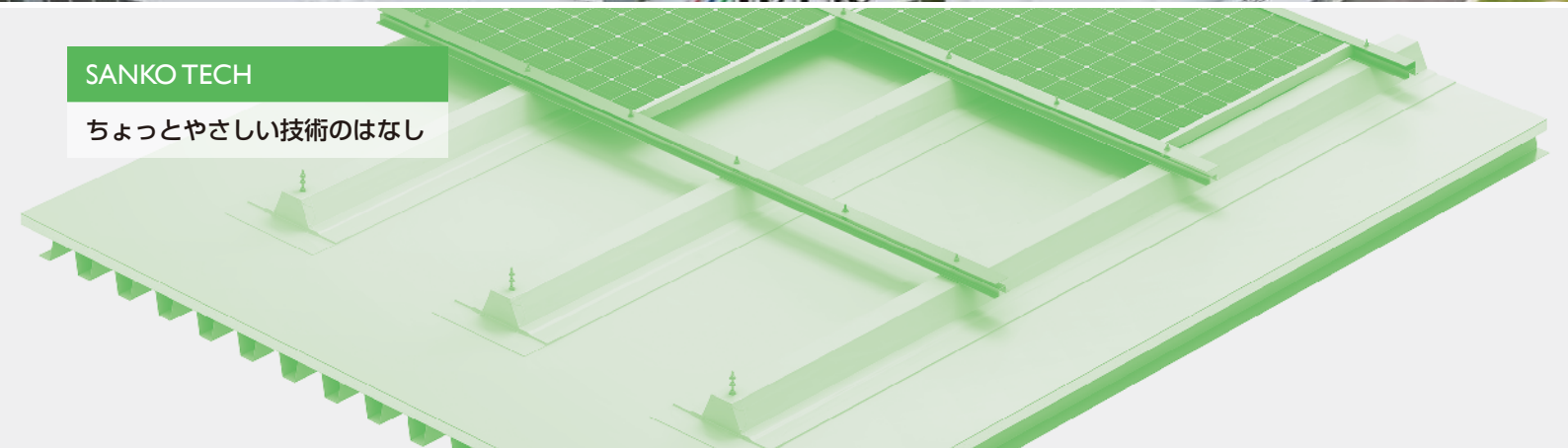
SANKO WORKS

北海道支店・東北支店



SANKO TECH

ちょっとやさしい技術のはなし



FOCUS ON ARCHITECTS

古谷誠章さん



鹿部町総合体育館

地域とともに歩み続ける建築



駒ヶ岳を背景に上空から。1994年に完成した鹿部町の自然と未来を表現した体育館。2023年6月から2024年2月にかけて改修工事が行われた

株式会社 二本柳慶一建築研究所



代表取締役
二本柳 慶一 氏

■約30年の時を経て

しかべ おしま
鹿部町は北海道の南端、渡島半島の東部、駒ヶ岳の山麓に位置する内浦湾（噴火湾）に面したまちです。道南有数の温泉地で、全国的にも珍しい間歇泉が有名です。鹿部町総合体育館は、私にとって特別な思い出のある建物です。新築として設計したのは1992年頃、私が独立して6～7年目、30代半ば過ぎのころでした。住宅や商業施設の設計はしていましたが、大規模な公共建築は経験がなく、鹿部町の体育館設計コンペへの応募は大きな挑戦だったのです。当時、函館建築士会の

青年部の部長や業界団体の役員を務めるなど、函館のまちづくりにも取り組んでいた中、スタッフとともに打ち合わせを何度も重ね、計画案を考えました。

設計は鹿部町のシンボルである駒ヶ岳からの軸線を意識しました。体育館の場所から、駒ヶ岳がきれいに見えるのです。この駒ヶ岳の雄大さや鹿部町の豊かな自然環境を建築に取り入れたいと考えました。エントランスは噴火湾の海を象徴する円形をイメージし、体育館部分の曲面屋根は、子どもたちが羽ばたくように育っていく姿、そして成長して、また鹿部町に戻ってきてほしいという願いを込めました。

それまでの自分は、中央への憧れも抱いていましたが、この体育館の設計を通して「建築が街やそこに住う人々と共にあること」に勇気をもらいました。

■耐久性とデザイン性を両立した改修

1994年の完成後から約30年、さまざまなシーンで利用され、町民もたくさん集

まってくれたのですが、カモメなどの海鳥もたくさん集まったために、とくに屋根は、大分傷んでしまっていました。雨漏りの被害なども出るようになり、たびたび、鹿部町の方から相談をいただいていた。その都度、メンテナンスはしていましたが、2023年に「もとのイメージを活かしながらか長寿命化を図りたい」とのご要望がありました。

今回の改修は、屋根の改修と防水改修、外壁改修、正面入り口付近の外構整正工事、アリーナの電灯をLED化する工事です。耐久性やデザイン性を考慮し、また、防鳥の対策など、今後20年、30年の長い年月、この場所で生きていく建物のことを考えると、屋根は三晃金属工業さんのステンレス防水であるR-T工法がベストな選択だろうという結論に至りました。当初のイメージを残したいというご希望から、防水屋根にはシート防水でなく、屋根の存在感を維持するため、R-T工法しかないと思いました。

名建築



体育館屋根より駒ヶ岳を望む



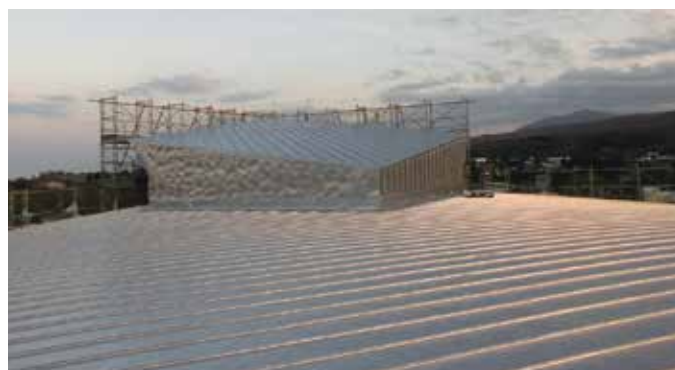
西側上空から



南側上空から



(改修前) アーチ型の屋根の上にドーム型の屋根



(改修後) ドーム型の屋根部分を、片流れの屋根に改修

■世代を越えて地域に根ざす存在に

私は函館・道南を拠点に活動していますが、地域で建築を手がける者として、建てた後も責任を持ち続けることが大切だと考えています。今後、ますます人口減少が進むなか、新しい建物をつくるだけでなく、いかに既存の建築に息を吹き返らせて長く使えるようにするか、今の時代に合った新しい価値をどのように付加するか考えなければなりません。また、空間をデザインするだけでなく、地

域に新しい使い方を提案することも必要となってくるでしょう。この体育館はスポーツ施設だけでなく、避難所としても使用されています。他にもマルシェや地域イベントを行うコミュニティを広げる拠点として、さらには地域住民の健康増進施設のような場として、多様な用途に対応できるようにしていく必要があります。冷暖房設備の充実や可変性のある設計を取り入れることで、体育館は「屋内の広場」としてさらに活用の幅を広げら

れると考えています。より地域に開かれたフレキシブルで、変化可能な空間をつくることが重要になってくると思います。

今回の改修で、まちの方々に再び私を設計者として選んでいただいたことは大変感慨深いです。建築は時代とともに地域の記憶や人々の暮らしに寄り添い続けるものです。この体育館も、親世代から子ども世代へ、またその次の世代へと使い継がれ、地域に根づいた存在であり続けることを願っています。



既存屋根の上にバックアップ材を敷く



ゴムアスルーフィングを敷く



しっかりとした仮設ステージ



ゴムアスルーフィング敷き終わり



R-T屋根材施工の様子



テーバー成型機を置くためのステージ



屋根改修ほぼ完了。駒ヶ岳を望む

■施工に携わって

三晃金属工業(株) 函館営業所

この体育館は、建設されてから約30年を経た建物で、改修工事として携わりました。全体の工期は2023年6月から翌年2月まで、屋根改修は9月から11月に実施しました。既存の屋根は当社施工のものではない、嵌合式の金属屋根でした。現場調査をすると、これまでの補修跡も散見され、だいぶ傷んでいました。建物を使用しながらの改修をご要望されていたため、工事中でも室内利用が可能で、防水性、耐候性の高いステンレス防水のR-Tカバー改修工法を採用いただきました。

施工では、長尺67mの屋根材をつくるために、屋根の高さまで仮設ステージを組んでいただきました。成型機をステージ上に設置して現場で成型し、継ぎ目

のない一体屋根を実現しました。厚さ0.4mmで自由度の高い屋根材ですから既存の屋根面にもなじみました。断熱材やゴムアスルーフィングを挟み込み気密性を確保することで漏水リスクも低減しています。また、防鳥対策として回転式防鳥器具を80基ほど設置しました。軒先のディテールや軒と立ち上がりの部分の仕上がりについて、今回の改修で見てもらいたかったところの一つ、と言っていました。それくらい施工班の協力によりきれいに納まっています。

函館地域では約30年ほど経過した建物の改修需要が増えてきました。「これから先の30年も使いたい。どうしたらよいか」という相談をいただくことも多くなってきました。この体育館のように、

それぞれのご要望にお応えできる屋根で課題解決にともに取り組みむことができた嬉しいですね。

建築概要

所在地	北海道茅部郡鹿部町字宮浜 265-1
事業主体	鹿部町
敷地面積	18,021.00㎡
建築面積	3,510.50㎡
延床面積	3,822.33㎡
構造規模	RC造一部S造
屋根仕様	R-T工法 SUS445J2(ダルフィニッシュ仕上げ) t=0.4mm 2,187㎡ 角波 高耐食性ガルバリウム鋼板(SGL) t=0.4mm 45㎡
設計	株式会社二本柳慶一建築研究所
施工	高橋組・工藤建設・佐藤工務店特定建設工事共同企業体
改修完了	2024年1月

ホクレン十勝地区家畜市場 新築移転工事

所在地：北海道河東郡音更町

設 計：(株)北農設計センター

施 工：宮坂・市川・萩原・川田特定建設工事共同企業体



■製品仕様

- 【屋根】 エックスロン防水／エックスロン銅板 $t=0.4\text{mm}$ 25,840 m^2
 立馳E-20／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 177 m^2
 【外壁】 角波／高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 5,450 m^2
 イソバンドBL-H／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=35\text{mm}$ 1,913 m^2

POINT

道内で最大規模の家畜市場です。パドック牛舎、繋ぎ牛舎、販売牛舎、セリ場の4つのエリアで構成されており、全てのエリアの屋根にエックスロン防水を採用していただきました。緩い勾配でもすがもれ対策に有効な防水屋根です。

ひがしかわライスターミナル新築工事

所在地：北海道上川郡東川町

設 計：(株)サタケ

施 工：(株)サタケ



■製品仕様

- 【屋根】 エックスロン防水／エックスロン銅板 $t=0.4\text{mm}$ 1,295 m^2
 丸馳折版I型／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=1.0\text{mm}$ 288 m^2
 【外壁】 サイディングS／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 4,001 m^2
 角波 (内壁)／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 1,636 m^2

POINT

屋根防水部は、防水性に優れたエックスロン銅板を採用していただきました。庇は強度に優れた丸馳折版I型 (長さ50m) で板厚も1.0mmとなっています。



Web版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

イリソ電子工業株式会社秋田工場新築工事

Web 版にてドローンによる空撮動画を掲載しています



製品仕様

【屋根】丸馳折版Ⅲ型／カラーガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 17,190㎡
 【外壁】断熱ヴァンドNZ35／カラーガルバリウム鋼板 $t=35\text{mm}$ 4,299㎡
 角波／カラーガルバリウム鋼板 $t=0.5\text{mm}$ 333㎡

所在地：秋田県横手市
 設計：横手建設一級建築士事務所
 施工：横手建設(株)



POINT

屋根材は働き幅が550mmの丸馳折版Ⅲ型を現場成型で1本ずつ吊って施工しました。広大な工場ですが、屋根材・外壁材ともにホワイト色で、圧迫感が抑えられています。

JA士幌町コロッケ製造棟(H・Iライン)新築工事



製品仕様

【屋根】エックスロン防水／エックスロン鋼板 $t=0.4\text{mm}$ 5,383㎡
 【外壁】インバンドBL-H／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=35\text{mm}$ 3,957㎡
 角スパン／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 584㎡

所在地：北海道河東郡士幌町
 設計：(株)北農設計センター
 施工：北斗産業(株)



POINT

屋根形状は陸屋根で、防水性が高いエックスロン防水を採用していただきました。外壁は無足場工法で行いました。足場ばらしによる外壁への負担が少なく、きれいな仕上がりとなっています。



Web 版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

食肉等流通構造高度化・輸出拡大事業食鳥処理加工施設建設工事 株式会社オヤマ新室根工場新築工事

Web 版にてドローンによる空撮動画を掲載しています



所在地：岩手県一関市
設計：(株)同人設計
施工：(株)大林組



製品仕様

【屋根】丸馳折版Ⅱ型／カラーガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 3,119㎡

【外壁】角波／カラーガルバリウム鋼板 $t=0.5\text{mm}$ 3,221㎡

SP ガルスパン／カラーガルバリウム鋼板 $t=15\text{mm}$ 619㎡

POINT

外壁を張り分け、アルミカーテンウォールと対比して、柱型を強調した納まりとなっています。

令和4年度南北線乗務庁舎・交通資料館新築工事



所在地：北海道札幌市南区
設計：(株)北海道建築総合研究所
施工：伊藤組土建(株)



製品仕様

【屋根】ハイタフEG／ハイタフシート $t=1.52\text{mm}$ 765㎡

丸馳折版Ⅱ型 ガッチリタイト／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.8\text{mm}$ 33㎡

立馳E-20／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 23㎡

【外壁】角スパンデル／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.4\text{mm}$ 924㎡

断熱ヴァンドNZ35 $t=35\text{mm}$ 350㎡

POINT

複数製品の屋根を採用いただきました。種類が異なる製品の取り付け部の納まりが、きれいに仕上がっています。



Web 版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

苫小牧サイロ株式会社第2号サイロ改修工事

所在地：北海道苫小牧市
設 計：丸彦渡辺建設(株)
施 工：丸彦渡辺建設(株)



製品仕様

【屋根】丸馳折版Ⅱ型(ダブルバック)上弦材／フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 3,415㎡
丸馳折版Ⅱ型(ダブルバック)下弦材／ガルバリウム鋼板 $t=0.6\text{mm}$ 3,415㎡
【外壁】サイディングS／フッ素樹脂アルミめっき鋼板 $t=0.5\text{mm}$ 17,649㎡

POINT

北海道では冬季は工事ができない気候のため、4期(4カ年)に分けて施工しました。広大な面積の穀物サイロを稼働しながら、屋根は丸馳折版Ⅱ型ダブルバックに葺き替え、外壁はサイディングSに張り替え、新築の建物のように仕上がりました。

新地町水産業共同作業施設増築工事

所在地：福島県相馬郡新地町
設 計：(株)関・空間設計
施 工：東北建設(株)



製品仕様

【屋根】折版F-80(ダブルバック)上弦材／フッ素高耐食性ガルバリウム鋼板(SGL) $t=0.8\text{mm}$ 707㎡
折版F-80(ダブルバック)下弦材／カラーガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 707㎡
立馳葺／フッ素高耐食性ガルバリウム鋼板(SGL) $t=0.4\text{mm}$ 78㎡

POINT

木造建屋で、木質梁へのタイトフレーム接合に対して木質構造体用ビスを使用した工法を採用していただきました。また意匠性を考慮し、下弦材をカラー面が下に見える逆成型とし、意匠性にも考慮した納まりとなっています。



Web版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

青森県営上屋改築工事

所在地：青森県青森市
設 計：(株)石川設計
施 工：阿部重・成文特定建設工事共同体



■製品仕様

【屋根】丸馳折版ロックⅠ型／カラーガルバリウム鋼板 t=0.8mm 3,200㎡

POINT

沿岸部に面している建物のため、高強度タイプの丸馳折版ロックⅠ型を採用いただきました。風の影響にも対応できるよう耐風圧強度の折版です。

サロマ湖漁港外1港航路拡幅その他工事(能取地区、卯原内地区)

所在地：北海道網走市
設 計：日本データーサービス(株)
施 工：(株)西村組



卯原内地区

能取地区

■製品仕様

【屋根】丸馳折版Ⅱ型／NS耐酸被覆鋼板 t=0.8mm 1,012㎡
丸馳折版Ⅱ型／NS耐酸被覆鋼板 t=0.8mm 777㎡

POINT

屋根の葺き替え工事です。沿岸地域にも耐候性があるNS耐酸被覆鋼板を丸馳折版Ⅱ型にて改修させていただきました。



Web版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

(仮称) 宮城富谷物流施設計画新築工事

所在地：宮城県富谷市
 設計：(株)鴻池組一級建築士事務所
 施工：(株)鴻池組



製品仕様

- 【屋根】丸馳折版Ⅲ型（ダブルバック）上弦材／ガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 4,917㎡
 丸馳折版Ⅲ型（ダブルバック）下弦材／ガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 4,917㎡
 折版W-500 吊工法／カラーガルバリウム鋼板 $t=0.8\text{mm}$ 426㎡
 【外壁】耐火インバンドPro／フッ素高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=50\text{mm}$ 6,021㎡
 耐火インバンドPro／フッ素高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=75\text{mm}$ 1,750㎡

POINT

高速道路から見える建物は、意匠性の高い耐火インバンドProを外壁に採用いただきました。屋根も働き幅が550mmと経済性に優れた丸馳折版Ⅲ型をダブルバック工法で、屋根、壁ともに断熱性に優れ、省エネ効果が期待できます。

LOTUS仙台

所在地：宮城県仙台市若林区
 設計：(株)菅野宏史建築設計事務所
 施工：(株)阿部和工務店



製品仕様

- 【外壁】サイディングSXラインウォール／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板 (SGL) $t=0.6\text{mm}$ 356㎡

POINT

ショールームの外壁にデザイン性の高いサイディングSXラインウォールをご採用いただきました。立馳のラインでシャープな印象の建物に仕上がりました。



Web版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

株式会社松立鋼機事務所・倉庫 新築工事

所在地：北海道釧路市
 設計：葵建設(株)一級建築士事務所
 施工：葵建設(株)



■製品仕様

【屋根】丸馳折版Ⅱ型／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板(SGL) $t=0.8\text{mm}$ 2,937㎡

【外壁】角波／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板(SGL) $t=0.4\text{mm}$ 1,150㎡

POINT

経済性と施工性に優れた丸馳折版Ⅱ型を採用していただきました。海岸に近い立地のため、耐食性の高いSGL鋼板を採用いただきました。

ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社 IBUKI プロジェクト

所在地：山形県東根市
 設計：三菱ケミカルエンジニアリング(株)
 施工：三菱ケミカルエンジニアリング(株)



■製品仕様

【外壁】耐火イソバンドPro／フッ素高耐食性ガルバリウム鋼板(SGL) $t=75\text{mm}$ 3,627㎡

POINT

製薬会社の施設に耐火イソバンドProを採用いただきました。優れた断熱性は室内の温度を一定に保つ効果があります。



Web 版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。

汗管興業株式会社苫小牧営業所 改修工事

Web 版にてドローンによる空撮動画を掲載しています



製品仕様

【屋根】丸馳折版Ⅱ型／カラー高耐食性ガルバリウム鋼板（SGL） $t=0.8\text{mm}$ 1,069㎡

【外壁】シリコン塗装／1,186㎡

所在地：北海道苫小牧市

施 工：三晃金属工業(株)



POINT

丸馳折版Ⅱ型に葺き替える改修工事です。屋根工事と一緒に外壁塗装も行い、新築のような仕上がりになっています。

特別養護老人ホーム寿限無ソーラーフレーム設置工事



製品仕様

【屋根】ハイタフEG／EPDM $t=1.52\text{mm}$ 1,926㎡

ハイタフEGソーラーフレーム／ハイタフメタル $t=0.6\text{mm}$ 496㎡

ソーラーシステムSフィット（139.8kW）252枚 （12直列×20並列＋6直列×2並列）

所在地：福島県いわき市

設 計：(株)大崎クリエーション

施 工：(株)大崎クリエーション



POINT

既存ハイタフ屋根上への太陽光パネル設置に際し、防水屋根の全面カバー改修と新工法のハイタフEGソーラーフレームを採用いただきました。建屋内部は稼働しながら工事できることが特徴です。



Web 版では製品名をクリックすると該当の製品ホームページへ移行します。



三晃金属工業の技術 …… ハイタフ EG ソーラーフレーム

防水性と強度を兼ね備えた 新しい形の防水用ソーラーパネル取付下地

特許取得済み
2023年12月
特許第7401712

——屋上の防水シート面にソーラーパネルを取り付ける
ことができますか？

可能です！

仕上がった防水シートの上から直接下地に固定ができる「ソーラーフレーム工法」なら、シート面に大きな穴を開けることなく、ソーラーパネル取付下地が設置可能です。

従来の工法の欠点であった、くりぬいた部分の防水性の低下や断熱欠損部を作ることなく施工ができます。

——新工法「ハイタフソーラーフレーム」はどんな工法ですか？

ソーラーフレームはシートと同材の樹脂が表面にラミネートされた特殊な鋼板を使用しています。

防水シート上からソーラーフレームを下地デッキプレートにビスで固定し、その上から仕上げシートを融着することで、ソーラーフレーム～防水シート面にかけて連続した防水面を形成することができます。

——どんな防水屋根でも使えるの？

ハイタフEGシートなら施工することができます。

既設のシートにも施工することはできますが、一般的にソーラーパネルは長期間設置することになるので、ソーラー設置前にシート改修することを推奨しています。実際にソーラーパネル設置に先立ってシート増し張り改修を行った事例もあります。

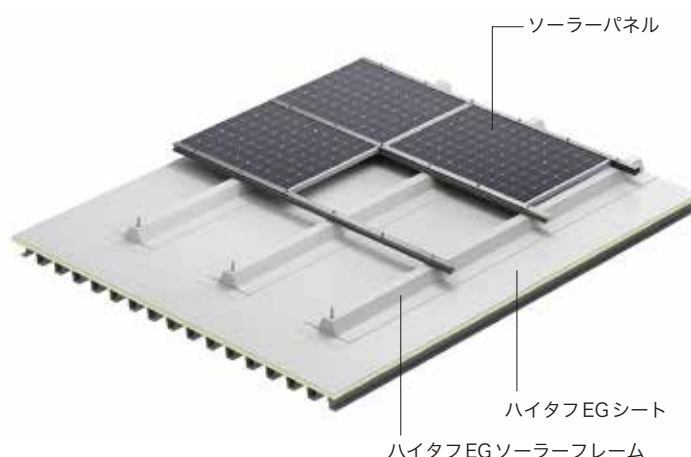
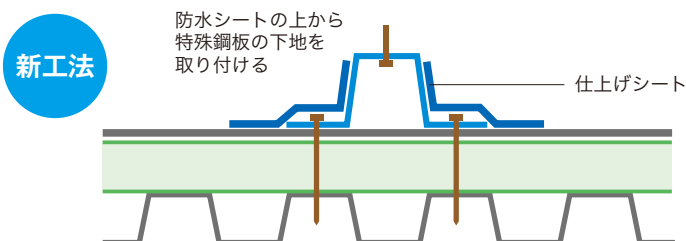
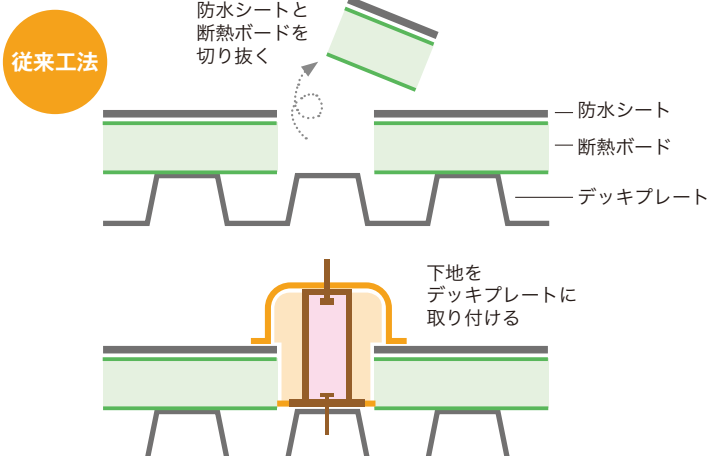
また、ソーラーフレーム裏面に防水テープを貼り付け、施工中の内部への漏水を抑える対策をしながら施工しています。

——ソーラーフレームは、他の利用もできそうですね。

はい。防水シート面でのソーラーパネル取付以外にもさまざまな用途に使用可能です。

例えば、屋上機械設備の下地や配線ラックの下地、雨水堰の使用も可能です。

＊条件に合わせた強度検討は都度必要になります。



広い面積でも
対応可能



ハイタフEGソーラーフレームの
製品情報はこちら



多くの人の声を聞き 長く使い続けられる建築をつくる

古谷誠章さん (NASCA)

建築家としてさまざまな作品やプロジェクトを手掛け、大学での研究・教育も精力的に続けてこられた古谷誠章さん。建築機能団体でも重責を務めています。ホームページにはキーワードが散りばめられ、それらが関連し合い、Shuffledされて新たな出会いが生まれるという古谷さんの建築観を表現しているかのように。設計された作品をもとにお話をうかがいました。

——大学での建築教育と建築家という実践を長年続けられました。どのような考えがもたれていますか。

私の大学時代の恩師は穂積信夫先生で、修士の時から関わったのが「早稲田大学本庄高等学院」の設計です。その後助手として研究室に残り、大学にいながら設計をするという環境の中で育ちました。本庄高等学院は、日本でほとんど最初の本格的な教科教室型(普通教室がなく英数国理社が別棟)の高校です。こういう発想は、教育研究の活動と実践する設計の場が掛け合わさらないとできないもので、自分自身のやり方の原点でもあります。

学生にとっては教科書だけで設計を教わるより、建築家から教わることでリアリティのある教育を受けることができます。教員の私にとっては学生に示せる教材となるような建築をつくり続ける必要があります。私自身の気持ちを高めることにもなります。それが建築家としても設計を続ける大きな原動力となりました。

——設計においてワークショップを大切にされています。

本庄高等学院で、これまでにない教科教室型の教育の場をつくらうとした結果、使う側の先生からは戸惑いの声がありました。見たことも聞いたこともない校舎をいきなり操縦しろと言われても、やり方がわからないということです。ユーザーが設計プロセスの段階から参加して、



一緒につくり上げることの重要性を感じました。

1995年にコンペで2等になった「せんだいメディアテーク」では、まさにShuffledされた図書館を提案しました。しかし、それをいきなり渡してもうまくいかないので、提出したレポートの後半は、どうやって図書館員やユーザー、子どもたちを含めてワークショップをするかについて記述しました。

同時期に設計した高知県の「アンパンマンミュージアム」では7分の1の模型を現場につくり、子どもたちとワークショップやイベントをして、本物ができる前に予行演習をしました。それにより、将来の利用者が具体的な使い方をイメージするのに役立ちました。ミュージアムを実際に使える日を子どもたちも楽しみにしていました。これが私の最初のワークショップです。

ワークショップが本格化したのが「^{かん}神流町^{なまち}合同中里庁舎」です。ここは役場の建て替えでしたが、早晩には役場でなくなることが予想されたので、そうなった時にどうするかをテーマに小中学生と一

緒に考えました。それを間接的に見ている大人や職員も、どうすればよいか考える機会になりました。引き渡しの翌日には合併することになり、役場としての建物ではなくなりましたが、将来の変化への準備ができていたため、多機能な施設として第二の人生を歩んでいます。

「茅野市民館」は設計者を選ぶプロポーザルがすべて公開されました。熱心な市民の方たちは、プロポーザルで何が評価されたのかも一緒に聞いていました。選んでいただいた私は、市と市民との協働の場である基本計画策定委員会に招集され、開館準備期間までの5年間にワークショップを143回開催しました。

ワークショップでみんなの意見を受け入れるあまり、最初の案から離れたもの



茅野市民館 (2005)

Photo: 浅川敏

になりそうになることもありました。そうすると、「プロポーザルでの古谷さんの案の良かったところがなくなるようなことはすべきではない」と、市民の方々が戻してくれたのです。それもワークショップの大きな効用でした。

——「氷見市芸術文化館」はとても開放的な外観ですね。

「氷見市芸術文化館」は、設計にかかった途端に富山県全域のハザードマップが見直され、この地域の浸水リスクが50cmから最大5mに大幅に上昇したため、ホールの主要機能をすべてピロティで持ち上げることになりました。これにより館自体が浸水から免れるとともに、地域の人たちの避難場所にもなります。そのためにも「あそこに行けば大丈夫」と分かる外観にしたい。さらに、文化館には回廊や広場、外部階段を設けることで、近隣の学生にとっても放課後を過ごすサードプレイスになればと思いました。そこで、市民が日常も非常時もここに集まることができる、出入り自由な場になることを考えました。

ホールや劇場は、中でイベントが行われても閉まっていたら外の人にとっては何もやっていないのと同じです。それが半開きや全開することができると、中の市民の活動が見えるようになります。それはすごく大事なことだと思っています。開いている箱を閉ざすことは簡単ですが、閉じてつくった箱は開けられません。だからこのホールは、閉鎖的ではなく「開けられる」状態でつくられており、内部の活動が外部から見えることで市民の関心をひき、新たな参加の機会を促す意図があります。

——「鹿島市民文化ホール」はホール内外がループ状につながっています。

「鹿島市民文化ホール」は、地元の小中学生や音楽の愛好団体など、普段の練習にも本番でも使えるような市民のためのホールです。

下見に行ったときに、中学生がコン



氷見市芸術文化館 (2022)

Photo: 浅川敏



鹿島市民文化ホール (2023)

Photo: 浅川敏

サート後に表にまわってお客さんのお見送りをしていました。それを見た瞬間にピンと来て、館の内も外もグルグル回ることが自然にできるホールにしたいと思ったのです。

コンサートなどで今まで客席にいた人たちが、次には舞台上で演奏し、また客席に戻るといった、舞台と客席をグルグル回れるようにするため、館内もループ状につながっています。

——金属屋根については、どのような印象がありますか。

傾斜屋根にするときは金属屋根を使うことが多いです。小布施の町立図書館「まちとしょテラソ」は三角形が麦わら帽子をかぶったような形で、金属屋根を使っています。最近では岩手県の田野畑村の木造の「道の駅たのはた」も金属屋根です。木造とは相性がいいし、耐候性もありますね。

ステンレスの場合は、さらに色の展開

があるといいですね。

——ご多忙のなか、建築職能団体の会長職も歴任されています。

建築職能団体での仕事では、次世代の建築家が活躍できるような社会や環境をつくりたいと思っています。障壁はありますが、それらを1つずつよくしていきたいと設計者選定の方式や、海外の仕事ができるように国際的にも通用する資格をつくる取り組みも行っています。

次世代だけでなく、今、全国の建築家が抱えている問題も含めて、建築家が仕事を継続できる環境をつくっていく。環境を整備できれば、人びとの生活環境の向上につながると考えています。

誰しも建築がつくり出す生活環境におかれています。今後も、建築が維持・管理されて使い続けられる社会を実現できるよう取り組んでいきたいですね。

——ありがとうございました。

古谷誠章(ふるや・のぶあき)

1955 東京生まれ
1978 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980 早稲田大学大学院修了
1986 近畿大学工学部講師
1994 早稲田大学理工学部 助教授
1994 八木佐千子と共同してNASCAを設立
1997 早稲田大学理工学部 教授
2017 日本建築学会 会長
2020 早稲田大学芸術学校 校長
2021 東京建築士会 会長
2024 日本建築士会連合会 会長



三晃金属工業は 屋根のことを毎日 考えています。



金属製長尺屋根を世に送り出してから半世紀以上、皆さまの暮らしを支える屋根をより良いものにするために、私達は来る日も来る日も屋根のことを愚直に考え、こだわり続けてきました。

こだわりのひとつは「丸馳折版」。

その「版」は一体化をなす平面（例えばRC床面など）を意味します。当社は、長スパン架構可能な金属製の折版構造として開発。したがって当社の製品名は全て「板」ではなくあえて「版」の字を使用しています。

「丸馳」の「丸」にも理由があります。

屋根材同士の接合部を丸型とし、密着させずにエアポケットを設けることで、雨水などを吸い上げる「毛細管現象」を防ぐ機能を持たせています。また、円形は力を分散して均一に負担できるため、強度面でも優れています。

丸馳折版は近年の台風の大型化や建物の高層化に合わせて、耐風圧強度を各段に高めた「丸馳折版ロックシリーズ」に進化しています。

街のランドマークから暮らしのそばにも

新築もリニューアルも

今までも これからも 屋根にできることを

三晃金属工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル11F
TEL:03-5446-5600(代表) <http://www.sankometal.co.jp/>

